

創刊号

2008 - 2009

編集・発行
千葉市動物公園ボランティア

千葉市動物公園の



セブンプラス

ボランティアがえらんだ

① ネコのなかまかな？ - ミーアキャット -

名前にキャットがつくけど、マンガースの仲間。アフリカの砂漠に住んでいます。お父さん（ホーブ）、お母さん（ミルミル）と6頭の子もたちで、お家はポコポコあいた穴の中。見張りや日光浴をする時には、背中を伸ばして、ツマ先立ちしている可愛い姿が見られます。運良くハカリに乗って見張りをしているところに出会えば、体重もわかりますよ。食事の時間（放送します）には、大好物のミルワーム（虫の幼虫）に触らせてもらえるチャンスあり！皆そっくりで、なかなか区別が付きませんが、しっぽの短いのを見つけたら、一番最初に生まれたイディアです。さあ、見つけられるでしょうか？



★それぞれの動物が見られる場所はウラの地図をご覧ください。

③ ひょっとして♡♡？いつも一緒に仲良し夫婦 - オウサマペンギン -

オウサマペンギンは、コウテイペンギンの次に大きく、頭部の両側と胸の上部にオレンジがかった黄色の部分があります。翼の付け根に赤いカラーリングをしている、やや大きい方がオス、黄色のリングが、メスです。一緒にいるケーブペンギンから少し離れ、2羽でじっと立っている事が多いです。足の指先をうかし、立っている姿は、なんとも愛らしいです。そして、1羽が歩き出すと、もう1羽も同じ方向に歩き出します。翼を後ろにそらしパタパタすると、もう1方もパタパタ。お互いに翼をやや広げ一緒に歩いていると、まるで手をつないでいるかのよう。ペンギンは、その状況にもよりますが、相手が亡くなるまで同じペアでいる事が多いと聞きました。そんな話も、このペアを見ていると思わず納得してしまいます。♡♡なのか？は判らないけど、仲良し夫婦の様子に思わずほほえんでしまいます。ゆったりと泳ぐ姿が見れたなら、とてもラッキーですよ。



② 家族団らんがほほえましい - クロザル -

モヒカンヘアがかっこいいクロザルは、インドネシア・スラウェシ島のごく狭い地域に住んでいる珍しい動物です。声も可愛いので、耳を澄ませてみてください。動物公園の4頭は、いかにも「家庭生活を営んでいる」という感じ。お父さん（アオ）は、顔はちょっと怖いが強くて優しい大黒柱。奥さんのことが大好きです。お母さん（キーちゃん）は子育て上手。発情中はお尻が真っ赤に腫れて座布団のようになりますが、病気ではないので心配しないで下さいね。お兄ちゃん（アサギ、3歳）と妹（ルリ、2歳）も仲良しですが、たまにプロレスごっこに熱が入って大騒ぎ。隣のマンドリル夫婦に「うるさいぞ！」とばかり怒られ、アオが対抗して立ち向かう場面もありました。家族思いの頼もしいお父さんです。

★ふだんはジツとしている動物も、食事のときは活発に動きまわし、何をどんなふう食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送が聞こえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもありますよ。

④ かわいい声でたがいに話し合う - テンジクネズミ -

色や模様がさまざまなテンジクネズミ、よく見ると毛の長さもちがい、つむじが背中やわき腹にあたりと、個性的です。柔らかそうに見える毛は、意外とゴフゴフ。静かに見ていると、キューキューと小さな声でおしゃべりしているのが聞こえてきますよ。毎日2時ごろに、鐘の音とともに一本橋をわたってお部屋にはいり、食事の時間。わき目もふらずにキャベツなどを食べます。水を飲むときに天井を向くしくさもかわいいです。

⑤ カラダは牛だがシッポは馬(?)

- ヤク -

中国の子ベツト自治区などで多く飼育されている家畜ですが、国内でヤクが見られるのはここ千葉市動物公園と富士サファリパークだけ。野性味のあるたくましい体と寒さに耐える長い毛。立ち上がるとフサフサの長いシッポが地面に届きます。このシッポの毛が、日本では戦国時代に武士が槍やよろいにつける装飾品として珍重されたというから意外です(もちろん輸入品ですね!)。美しい曲線を描いて天を指すツノも魅力です。



暑さに弱いので夏は日陰にじっとしていることが多いのですが、冬は立って歩く姿が比較的好く見られ、今がヤクの見ごろです。

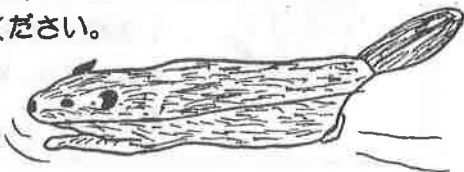
⑥ただ可愛いだけじゃない。スケレモノの建築家

- アメリカビーバー -

ビーバーと言えば大きな前歯の愛嬌ある顔立ちを連想しませんか? でも初めて近くで見ると、異質な感じのシッポに目を奪われることでしょう。同じ泳ぐ動物でも、コツメカワウソとは全然ちがいます。

伸び続ける鋭い歯は、ダムや家を造るためのもの。動物公園でも、飼育係の方が桜の木などを立てておくときとせとせとかじり、いったん作業にかかったら休憩なしで、大体30分以内に1本倒します。これは毎日やるわけではないので、見られればラッキー。ビーバーは夜行性なので午後3時以降に活発に動き始めます。お帰りの前に寄ってみてください。

体のわりに小さな前足もとってもキュートです。



★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

⑦ 守ってあげたくなるほど いとおしい - どうぶつの赤ちゃんたち -

【 フタコビナマケモノ 】

2008年8月26日に母親から地面に落ちてしまったため人工哺育をしています。体調も安定し、くだものなども食べるようになったので、時間限定で動物科学館の類人猿展示室で公開しています。元気に動き回ったりタオルにつかまって眠っている姿を、すぐ目の前で見る事ができます。むこうを向いていても、ガラスをたたかないであげてくださいね。体調によっては展示できない場合もあります。公開時間は動物科学館の掲示を見るか、園にお問い合わせください。パードホールにいるお父さんとお母さんも探してみてください。

【 ミナミコアリクイ 】

池袋サンシャイン国際水族館のミナミコアリクイは脱走で有名ですが、当園のはごくたまにしか巣箱から出てきません。それもそのはず、今は育児で大忙しなのです。2008年9月9日に赤ちゃんが生まれ、母親に背負われている姿が見られるようになりました。巣箱から出ているところを見られたらラッキー。たまに背中から落ちると、お母さんがいそいで拾いにいきます。

【 ワタボウシバンシエ 】

南米原産のサル仲間。2008年10月27日に生まれました。木の枝から枝へ活発にとびうつるおとなの背中にしっかりつかまっています。ワタボウシバンシエは、授乳のほかは父親が育児をするので、赤ちゃんを背負っているのはたぶんお父さん。赤ちゃんは小さくても、立派なワタボウシをかぶっています。

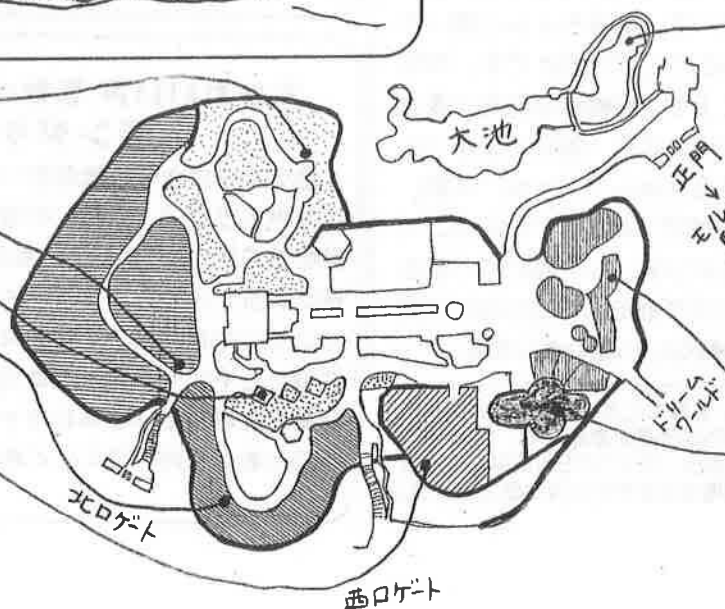
③ オウサマペンギン
(鳥類・水系ゾーン)

① ミーアキャット
(草原ゾーン)

⑥ アメリカビーバー
(小動物ゾーン)

⑤ ヤク
(家畜の原種ゾーン)

④ テンジクネズミ
(子ども動物園)



大池ではさまざまな野鳥が見られます。
(池) カルガモ、コガモ、コサギ、カイツブリ、オシドリ、カワセミなど
(樹上・樹間、地上) ヒヨドリ、キジバト、エナカ、シジュウカラ、コゲラ、ツグミ、モズ、ジョウビタキ、ムクドリなど
風がなく日当たりのよい午前中が good!

② クロサル (モンキーゾーン)

⑦ フタコビナマケモノ / ミナミコアリクイ / ワタボウシバンシエ (動物科学館)

第2号

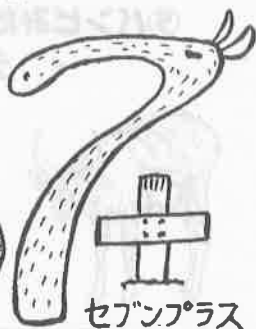
2009年

編集・発行 千葉市動物公園ボランティア

千葉市動物公園の

見どころ

ボランティアがえらんだ



★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をご覧ください。

①ニューフェース ゴリラ紹介 - ニシゴリラ -

昨年12月にモモコ・モモタロウ親子とトレードで上野動物園から2頭のゴリラがやってきました。オスのケンタは31才。出生地は不明ですが、千葉へ来る前4カ所を移り住んだ^{転勤族}。屋外展示場でよく地べたに寝っ転がりながらお客さんを観察しています。おだやかな紳士タイプ、高く^{盛り}上がった頭が特徴的です。メスのローラはケンタと同じ31才。出生地は大分で、その後埼玉、東京と移動しました。人工保育で育ったので自分を人と思っているのか、他のゴリラとは距離を置いているようです。屋内展示場のガラスの側に来て人を観察しています。仲間と思っているのかも。モモコに比べるとスマートでメタボ検診はクリアー？

②大きな歌声とみごとな^{てっぼう}鉄棒わざ - フクロテナガザル -

大きくふくらむ「のど袋」を持っていて、2頭で掛け合いのように鳴きながら鉄パイプにぶら下がり、追いかけっこをします。鳴き合いがピークに達するとパイプの上を走ることも！鳴くときに、手や足を口元に添えることもありますよ。この大きな歌声で相手とコミュニケーションをとったり、^{縄張り}を主張したりしています。1日数回しか鳴きませんが、鳴き始めると15分くらい続きます。園内どこでも聞こえますから、「ホッ、ホッ」という声が聞こえてきたら見に行ってください。水が嫌いなので^桶の代わりに池に囲まれています。冬、池が凍ると、逃げられないように飼育係さんは一生懸命氷を割るそうです。



★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きまわすし、何をどんなふう食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送が聞こえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

③くだもの大好き。血は吸いませぬ - テマレルーセットオオコウモリ -

住んでいるのは、東南アジア熱帯のどうくつの中やマングローブの林。くだもの大好きで、動物園ではバナナ、リンゴ、オレンジなどを食べてます。大きな目をしたかわいい顔。いつも、さかさまにぶら下がってるけど、ウンチャオシッコをする時は、よごれないように頭を上にするきれい好き。そして、鳥のように飛べるのは、ほにゅう類ではコウモリだけというのが、一番のじまん。飛ぶ時にマントがうらがえらないように、ひざがうしろ向きについているので、よく見てたしかめてね。ごはんを食べにきた時が、じっくり見るチャンス。血をすうこわ〜いイメージを持ってた人もきっとファンになっちゃうはず。



④自然はふしぎ。 こんなにきれいな鳥がいるなんて。 - スミレコンゴウインコ -

くだものや花に囲まれた中南米の熱帯雨林に暮らすコンゴウインコは、大きくて力強いクチバシでかたい木の実や種を割って食べます。当園には6種類が飼育されていますが、中でもスミレコンゴウインコは頭とクチバシが大きく、眼には白目がなくてやさしい表情。全長約1メートルのうち、半分の50センチは^{尾羽}です。つがいは通常一生^濡い泳げますが、当園の2羽も仲良しでお互いに羽づくろいをしていることが多く、目を細めて気持ち良さそうです。エサの植物を片足で握って食べたり、移動は足とクチバシを交互に使うなど、美しさだけでなく、足と口の器用な使い方にも注目してください。

⑤バンビみたいだけどシカではない

- シタツガ -



ボク、シタツガ。自然の中ではアフリカの草原でくらししているので干葉では「草原ゾーン」にいるんだよ。家族は、パパ、ママ、お姉さん、ボク、そして今年の3月に生まれたばかりの妹。パパは立派な角をもっていらそうなんだ。ボクも大人になると角が生えるよ。ママとお姉さんと妹はメスだから角は生えないんだって。いつもは草原で暮らしているけど、ヒツメが長いので湿地を歩くのが得意だし水の中を泳ぐこともできるよ。大人のオスは灰褐色で大きな体、メスと子供は褐色で縞模様があるよ。みんな、ボクがバンビみたいで可愛いって言うてくれるのでとてもうれしいな。キミもボクに会いに来てね。

⑥アンバランスが面白い

- アメリカバイソン -

大きな顔と盛り上がった肩、フサフサとした長い毛につつまれた前半身にたいし、うしろの半分はミョーに貧弱で、おしりのあたりはハダカのように見えます。また、横から見るとポリウムある体格なのに、正面から見ると意外と身幅がうすくて、なんだか魚みたい。戦闘用の形をしたツノもあって怖そうに見えるわりに性格はおとなしく、飼育係さんになついています。ディズニー映画「美女と野獣」のモデルになったのも、このアンバランス感のせいでしょうか。

かつては北アメリカに広く分布していましたが、狩猟によって激減し、今は国立公園などで保護されています。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

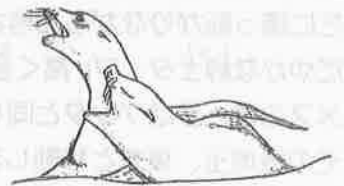
⑦オスは大型潜水艦、メスは戦闘機のような泳ぎっぷり
- カリフォルニアアシカ -

濃い褐色の大きいのがオス、黄褐色の3頭がメスです。2頭のメスはこの動物公園で15頭の子どもを産み、全国の動物園や水族館に送り出してきました。

アシカは時速30kmの速さで泳ぎ、深さ70mまで潜水できるそうです。地下通路から見ると、鰐のような形の前足を使って飛ぶように泳ぐ姿が見られます。

食事時間（放送あり）には飼育スタッフが投げるサバやアジを上手にキャッチ。運が良ければ、オスが岩の上から豪快なダイビングを披露してくれます。

アシカは約2500万年前、北太平洋地域に生息していたイヌに似た動物から分かれ、進化してきたのだそうです。そういえば顔、ヒゲ、鳴き声などもイヌに似ていますね。



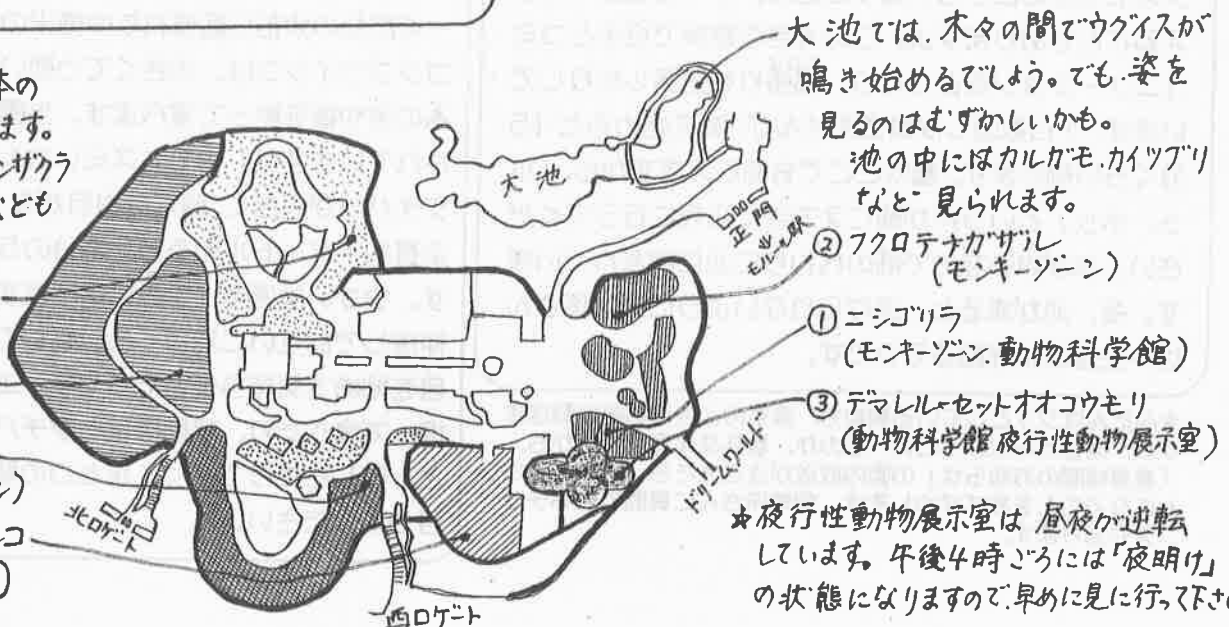
【しつもんコーナー】
レッサーパンダのヒミツ

Q おしりをこすっているよ！かゆいのかな!?

A 野生のレッサーパンダは子育て期間の母子を除くと、普段なわばりを持って1頭ずつで暮らしています。そこでなわばりを示したり他のレッサーパンダとコミュニケーションをとるために、肛門近くと後足の裏にある臭腺をこすりつける行動（マーキング）をするのです。

園内には約360本のソメイヨシノがあります。一足早く咲くオオカンザクラ（家畜の原種ゾーン）などもみごとです。

- ⑦カリフォルニアアシカ（鳥類・水系ゾーン）
- ⑤シタツガ（草原ゾーン）
- ⑥アメリカバイソン（家畜の原種ゾーン）
- ④スミレコングウインコ（子ども動物園）



★夜行性動物展示室は昼夜が逆転しています。午後4時ごろには「夜明け」の状態になりますので早めに見に行ってください。

第3号 夏

Summer 2009

編集・発行 千葉市動物公園ボランティア

千葉市動物公園の



ボランティアがえらんだ



セブンプラス

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をご覧ください。

①おめでとう！4つ子誕生 - アメリカビーバー -

4月23日に当園で初めてアメリカビーバーの赤ちゃんが生まれました。育児に積極的なお父さんドンちゃんとお母さんピンちゃんが一生懸命子育て中です。ビーバーの出産は年1回。子どもは生まれた時から目が開き、毛も生えています。鳴くときは「クー」と「ブー」の間のような声を出すそうです。

4つ子の体重は、生後6日目で約600g、21日目で

1kg程というように成長。新しい家族を迎えたビーバー一家の今後が楽しみです。夜行性動物のため午後遅めの方が姿を見かけやすいかもしれません。



③おさがせしました - アフリカハゲコウ -

動物公園から脱走してお騒がせしたアフリカハゲコウ。捕獲直後は体力も落ち、心配されていましたが、現在はおかげ様で元気になりました。

アフリカハゲコウはアフリカ中南部に生息し、動物の死体を食べることから「草原の掃除屋」とも言われています。頭がはげているのは、死体に頭を突っ込んで肉をついばむため、頭部を清潔に保つよう毛がはえてないのです。当園ではアジを与えています。オスとメスで1日に約1.2kg食べ、食べ方が乱暴で、魚を振り回したりするので部屋の壁は魚の破片だらけだとか。飼育係泣かせですね～。この「かわいい」とは言いにくい見た目と人に慣れないシャイな性格ですが、皆さん仲良くしてくださいね！



②コフはないけどラクダの仲間 - ラマ -

南アメリカの家畜動物ラマは、今、CMで人気のアルパカと同じ、野生のラクダ科グアナコの子孫だと言われています。アルパカより大きくたくましいラマは、おもに、荷物運びに使われています。厚く暖かい毛は、標高が高く、凍るほど寒いアンデス山脈での生活に大切なもの。心臓はとても強いそうです。

動物公園のシロ（顔が白色）とミケ（顔が三色）は推定18～20歳のおばあさんラマです。千葉に来て15年、今では千葉の気候に慣れ、暑さ寒さは苦手です。日なたで悠然と座っている姿は、どこか気品を感じさせますが、のんびり、口元をモグモグと動かしている顔に「本当のおばあちゃんみたい」の声も。さて、皆さんは、どう見るかな？

★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きまわすし、何をどんなふう食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送がきこえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

④ヤモリとのちがいがわかるかな？ - イモリ -



子ども動物園の中にある飼育センターには、身近な野生動物が展示されています。ドジョウと同じ水槽にはいるのがイモリ。岩かげに隠れていることが多いので、見つけにくいかもしれません。背中や岩と同じような色ですが、おなかは濃いオレンジ色に黒いもようがあって、きれいです。このアカハライモリは日本固有の種で、北海道をのぞく全国の池やたんぼに住んでいます。水の中で卵からかえり、エラで呼吸をして、成長すると水から出て肺で呼吸するようになる両生類。カエルの仲間です。まちがえやすいヤモリはトカゲやヘビと同じ爬虫類で、水には入りません。夜、家の窓ガラスの外側で虫が来るのを待っているのは、ヤモリですね。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

⑤わーお！これはキツネ？それともサル？
- ワオキツネザル -

水に囲まれた島にいるワオキツネザル。お父さんの「コボ」、母さんの「ミイ」、お兄ちゃんの「ボク」そして今年3月に生まれたばかりの赤ちゃん（性別はまだ不明）の4頭の家族です。寒さに弱いのでお日さまに向かって手足をひろげ、身体を温めるのが日課です。

ワオキツネザルという名前の由来はその姿を見ると分かります。長い尾がしましまの輪模様で、サルというよりはキツネのようなトンガリ顔。それで「輪尾



キツネザル」なんです。マダガスカル出身で、エリマキキツネザルと同郷です。実は水が苦手。だから船がなくても脱走することはありません。だまに走り回って池に落ちると、必死にはい上がるそうです。

⑦お猿さんの顔は赤い???

日本でただ1頭

- カオムラサキラングール -



二ホンザルの顔が赤いのは皮膚の下の毛細血管の色が透けて見えているため。実はサル類の中でも赤い顔とお尻を持つサルは二ホンザルを含むごく一部のサルだけです。

スリランカに生息し、国内では千葉市動物公園で見ることのできないカオムラサキラングール。ジャングルでは紫色に見えます。頭上の葉色がかった冠毛と白い頬髭がチャームポイント。

モンキーゾーン・サル比較舎の一番左端のお部屋にオスが1頭だけいます。ぜひのぞいてみて下さい。背の高いお部屋は、リーフモンキーといわれる葉を主に食べるサルが、樹上で暮らしやすい環境を作ったものです。比較舎の構造から動物たちの生活ぶりを考えてみるのも面白いかもしれませんね。

⑥地味なマントヒヒとまちがえないで~
- マンドリル -

ほくヨタロウ、15才。いっしょにいるのは、モモ10才と最近やってきた2才のメス。オスはメスの2.5~3倍も大きいから、親子みたいでしょ。ほくの仲間は、アフリカの熱帯雨林にすんでるんだ。ライオンキングにも出ているよ。オスの顔とお尻は赤、青、紫とカラフルだから、みんなびっくりするけど、これは毛の色じゃなくて、ヒフの色なんだ。見かけはハデだけど、ほくってデリケートでストレスを内にためちゃうタイプ。モモはちょっと気が強いかな。でも、よく毛づくろいをしてくれるんだよ。おでこやアゴを台の上にのせてねるのが好き。夕方は中にあるへやで遊具にアゴをのせてねてるかも。頭が重いのかなって笑われちゃうんだ。のぞいてみてね。

【しつもんコーナー】

レッサーパンダのヒミツ

Q 夏はなんだか元気がないみたい...

A 中国やネパールなどの高山に住んでいるレッサーパンダたち。たくさんの毛で体を覆い、寒さに強く暑さには弱い動物です。夏は熱中症になってしまうため、動物園では冷房の部屋に自由に出入り出来るようにしています。

大池は別世界のような静けさです。おとな向けの散策路あり。野鳥や鯉に出会えます。

③アフリカハケウ (草原ゾーン)

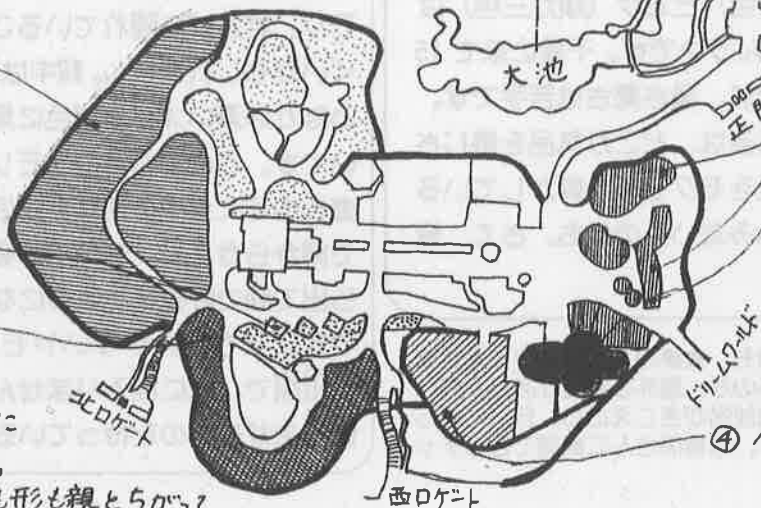
★新しく、アミメキリンの若いオスが京都からやってきました。

①アメリカビーバー (小動物ゾーン)

②ラマ (家畜原種ゾーン)

★家畜原種ゾーンではム7ロンとアメリカバイソンに赤ちゃんが生まれました。

バイソンの赤ちゃんは色も形も親とちがってこれからが楽しみです。



⑤ワオキツネザル (モンキーゾーン)

⑥マンドリル (モンキーゾーン)

⑦カオムラサキラングール (モンキーゾーン)

★暑い日は、冷房のついた動物科学館で涼んでみてください。夜行性動物展示室は暗くておぼけやしきみたいだけど、お静かにね!

④イモリ (子ども動物園)



① ようこそ！ 竜王
- アミメキリン -

6月にアミメキリンのオスが新たに仲間入りしました。名前は竜王^{リウオウ}、京都市動物園生まれの2才です。「竜王」は京都の山にちなんで名付けられたそうです。来園当初は母娘キリン(母アジム、娘サツキ)の母親の後をよく追っていました。今は千葉の生活にも慣れたようで元気に歩き回っています。

竜王は人なつこいところがあり、体のアミメ模様がくっきりと美しいのが特徴です。今はまだ子どもの竜王ですが、あと2～3年するとアジムやサツキより大きくなって、立派なオスに成長するでしょう。

動物公園では竜王とサツキの間に将来赤ちゃんが生まれることを願っています。これからの竜王の成長を見守ってくださいね。

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をご覧ください。

③ 出るか！ ガツンと一発
- ムフロン -

家畜原種ゾーンには、よく、お子さんたちの「あっ、がらがらどんだ！」という声がひびきます。そう、岩山のようなところにいるムフロンは、あの名作童話「三びきのやぎのがらがらどん」のヤギに似ていますね。でも残念、ムフロンはヤギではなくてヒツジの祖先の動物。ヤギのようなあごひげはありません。

立派な角のあるのはオス、ないのはメスです。オスは秋になると、ときどき、角をぶつけ合って力くらべをします。数メートルはなれて向き合い、一気に駆け寄ってガツン！ これは繁殖期に、強い順番を決めるため。岩からころげ落ちることもあり、見ているほうはハラハラ、ドキドキ。運がいいと見られます。

② 道具を使う鳥

- エジプトハゲワシ -

エジプトハゲワシは一見ニフトリみたいですが、とても珍しい鳥です。というのは、この鳥は日本ではここ千葉市動物公園でしか見ることが出来ないという事と、道具を使ってエサを食べるという事です。本来、小動物や死肉を食べる肉食で、当園では鶏頭^{ヒキ}や馬肉を与えています。野生では、タチョウのタマゴのように殻が硬くて割れないものを食べる時は、小石をくわえてタマゴにぶつけ、穴を開けて中身を食べます。

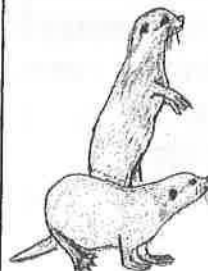
場所は鳥類水系ゾーンで展望台の横、ちょっと目立たない場所ですが体が白くて顔が黄色い60cmくらいの鳥が3羽います。見ていってください。



★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きまわすし、何をどんなふう食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送がきこえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

④ 似てるのどれかな？

- コツメカワウソ -



カワウソは南極、オーストラリア、ニュージーランドを除く、世界全域の水辺や海上で生息しています。海に住むラッコも同じ仲間ですが、ラッコは陸にはめったに上がりません。

コツメカワウソは体長41～64cm、尾長25～35cmと世界で一番小さなカワウソです。名前の通り足には小さな爪と水かきを持ち、爪は足の先からはみ出ることはありません。指先は器用でえさのドジョウをしっかりとつかんで食べている姿が見られます。泳ぎながら水面から顔を出すため、鼻・耳・目の位置が同一線上に並んでいます。動物公園の仲間にも似た動物がいますがそれは誰でしょう？下記から選んでください。

(1) カピバラ (2) レッサーパンダ (3) ペンギン
答えはウラ面下にあります。当園では飼育していませんがカバやワニの顔も似ているかも。

⑤ハハァ〜水戸黄門さまでござル〜
- フラッサゲノン -

額に三日月型のオレンジの模様と鼻からアゴにかけての白いりっぱなおヒゲ。水戸黄門ザルと言われるのもなるほど… けどアレ？ 舌が出っぱなしですよ〜 これが「ボン」(オス)のチャームポイント。ちょっと小柄なのが「ウー」(メス)です。オスはメスの1.5倍位の大きさ。ゲノンの仲間では一番きれいで大型。ブラッサは発見者の名前だそうです。アフリカ中部の水辺のある森に住んでいて、地上にもよくおりてくる



半地上生活。果実や昆虫など食べるので、当園でも飛んできた虫をパクッと食べる場所が見られることも。いつもボーッとしてフンテンボ遅いというボンと姉さん女房のウーをよろしくね。

⑥日本でここだけ。化石ザル
- ゲルディモンキー -

アジア・アフリカに住んでいる「旧世界ザル」の祖先は、類人猿の祖先として分かれ、やがて、ヒトへと進化しました。一方、約4千万年前にアメリカ大陸に移動したサルは独自の進化を遂げました。アメリカ大陸で独自の進化を遂げたサルは「新世界ザル」と呼ばれています。

新世界ザルは、オマキザルとマーモセットの系統がありますが、ゲルディモンキーは、この両方の特徴を併せもっているため、「化石ザル」とも呼ばれています。外見からはこの特徴が分かりにくいと思いますが、20世紀になって発見された1属1種の希少種です。

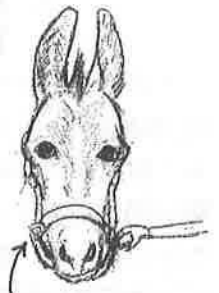
未知の分野も多い進化の不思議に思いを馳せてみませんか。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

⑦クルッと回る大きな耳。
別名は、うさぎうま
- ロバ -

温和で、乾燥した寒い所でも粗食に耐える丈夫なロバ。主に荷物運びに使われています。その大きな耳から、うさぎうまとも呼ばれていますが、「ホーヒ、ホヒッホヒ」という鳴き声や尻尾は、馬よりもシマウマに似ています。

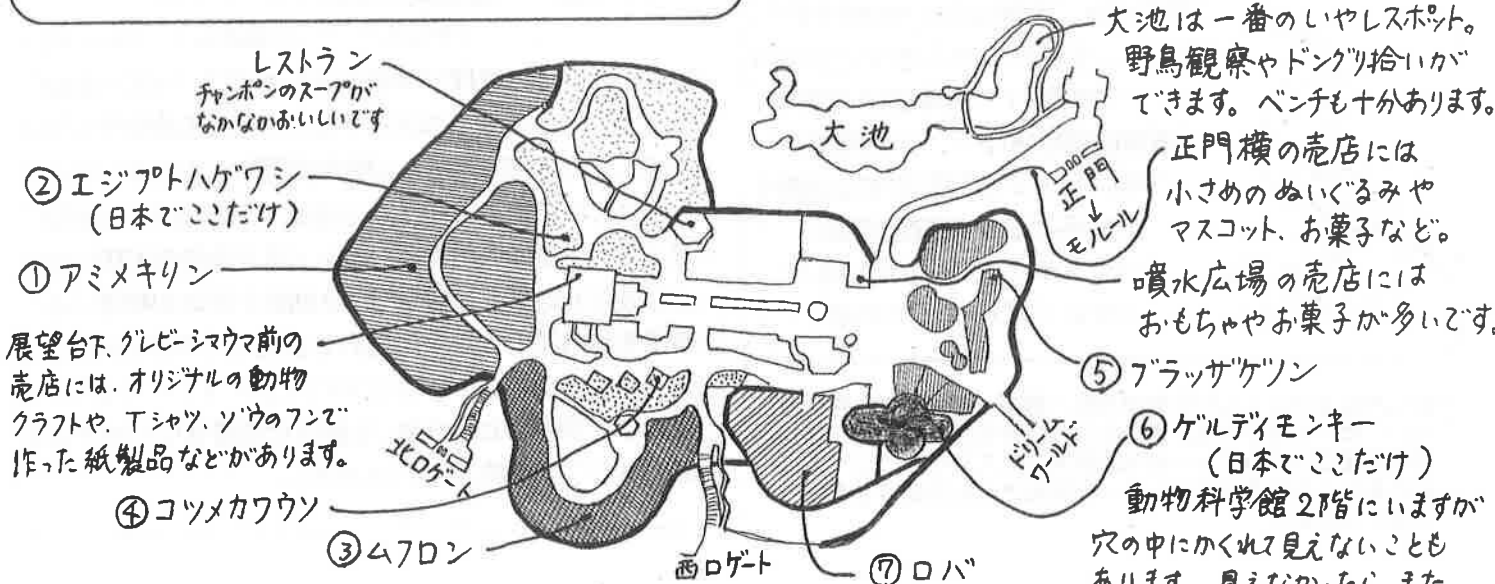
さて、子ども動物園には、松五郎とブラム、その娘の小梅の3頭がいます。赤い頭絡をつけている小梅は、昨年5月3日生まれ。まだ子どもっぽく、お転婆で、人なつっこいです。ゴロツと横になり砂浴びをしたり、人のそばに寄って来たり。でも、「小梅〜」と呼びかけても、振り返ってくれない時が。聞こえないのかな？いいえ、クルッと回る大きな耳が、こっちの方を向いていたら、その声を聞いていますよ。



鼻のまわりと頭のうしろにかけるとモカ頭絡です。移動のときなどに使います。

【しつもんコーナー】
レッサーパンダのヒミツ

- Q. 風太くん、いつ立つのかなあ〜？
A. 風太くんだけでなくレッサーパンダは目的があるときに立ち上がります。主食のササに手を伸ばして引き寄せたり、周りの様子を確認する場合などです。
足の裏は人間と同じようにかかとまで地面についているので、安定して立ち上がることができます。



第5号



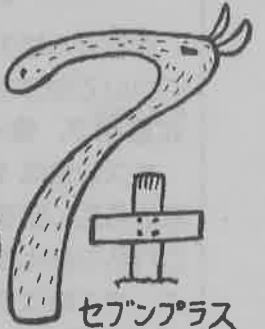
2009 ~ 2010

編集・発行 千葉市動物公園ボランティア

千葉市動物公園の

見どころ

ボランティアがえらんだ



セブンプラス

①父さん母さん、

わんぱくトリオにてんてこまい

- コツメカワウソ -

小動物ゾーンではコツメカワウソのポンタ父さん(3才)とチイコ母さん(2才)が協力して子育て中。8月10日生まれの子3頭の子どもたち、泳ぎは上手になりましたが、おやつ(ドジョウ)はまだまだ親におねだりしています。食欲旺盛の赤ちゃんが自分でドジョウを取れるようになるのはいつかな?お昼頃がおやつタイムですので、流線型の新幹線のような素早い泳ぎをご覧ください。水中生活に適應した体型と耐水性のある毛皮をまとっていますが、水からあがると濡れた身体を地面や麻袋にこすりつけたりします。姿がみえないとき麻袋のなかに潜り込んでお昼寝しているかも。カワウソファミリー今がまさしく見どころで、まだ見てない方は是非ご覧くださいね。

②目指せ!いやし系アイドル!?

- ムツオビアルマジロ -

左に右にせわしく動き回る姿がとっても愛らしいアルマジロ。性格はおとなしく人懐っこい。展示場の裏手から飼育係さんが呼びかけると、そばにやってくるくれました!手を差し出すと、まるで穴掘りをするかのようにガリガリとしながら、しきりに鼻をクンクンさせて、匂いをかいでいる様子。つぶらな瞳が可愛くて、じ~っと観察していても飽きません。タイミングが悪くて寝ている姿しかご覧になっていない方は、ぜひ今一度会いに来て下さいね!サマースクールや飼育体験等、イベント時には実際に触れるチャンスがあるかもしれません。癒し系アルマジロがお待ちしていま~す!



★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きまわすし、何をどんなふう食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送がきこえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をご覧ください。

③メスも赤ちゃんもヒゲがはえてるよ

- エンペラータマリン -

立派な白いヒゲからエンペラー(皇帝)タマリンと名づけられた南アメリカの小さなサル。頭は黒くて、お尻としっぽはオレンジ、体はこげ茶のまだら模様で、なかなかオシャレ。お父さん、お母さん、2頭のお兄さんと10月1日生まれの双子の赤ちゃんがいます。びっくりするのは子育て。オッパイをあげる時以外、お父さんとお兄さんが赤ちゃんをおんぶして、お母さんを助けます。お父さんは、がんばって2頭おぶってること。赤ちゃんは、1カ月過ぎる頃から少しずつ親から離れて動きだします。このフロアは中南米のサルたちで、二つの鼻の穴の間がはなれて外側を向いているのが特徴。わたしたちの鼻とくらべてみてね。



④アマゾンの宝石は遊び好き!!

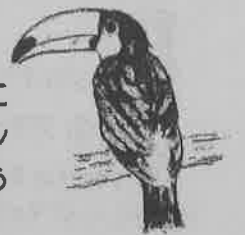
- オニオオハシ -

トロピカルな色彩。豪華なクチバシ。バードホールを遊藝に滑空する迫力。ともかく絵になります。これだけビジュアルに恵まれている上に、好奇心が旺盛で遊び好き。あれっという感じで小首を傾げたら、君に興味を持った合図?得意のポーズを見せてくれます。

【ポーズ1】(クチバシを使った基本ポーズ): クチバシの先に果実をくわえる→長い舌先で確認→頭を上→振って→喉の奥に放りこむ

【ポーズ2】(ゲームを楽しんでいるらしい): カチィという音が聞こえたら→2羽がクチバシとクチバシを打ち当てる→組み合う→押し合う→押し合いに負けたほうが退場

【ポーズ3】(最高レベル?): クチバシで果実を放り投げる→別の1羽が空中で受け取る



⑤生まれたときから一人前
- トナカイ -

赤ちゃんは生まれてすぐに立ち上がり、群れの移動についてゆきます。草食動物ですが、原産地は北歐や北極圏で、寒く、草が少ないきびしい環境です。

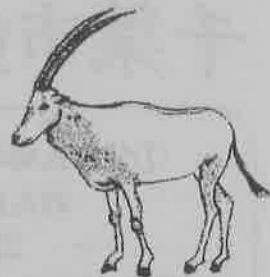
オスの角は12月に、メスは2月に自然に抜け落ち、春に再生します。また体毛も夏毛と冬毛に変わるので、これらの変化が見られた時は季節変りを実感できますよ。歩く時にポキポキと音がします。また鳴き声はめったに聞けません、母コマチと娘ノソミでたがいに時々は鳴くそうですから、聞いたら幸運ですね。サンタの相棒として知られるほかは地味な存在ですが、親子がいつも仲良く連れ添う光景を眺めて、ホッとすることも多いでしょう。



★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

⑦種で頑強。野生では絶滅
- シロオリックス -

やさしいまなざしに白と茶のグラデーションボディ、ゆるやかに曲がった角。草原ゾーンの小高い丘に優雅に立つシロオリックス。ウシの仲間で、水の少ないアフリカの砂漠地帯やサバンナでもエサにする草の水分だけで生きぬくことのできる頑強な動物です。でもその美しい角や皮目的の乱獲により野生ではすでに絶滅！

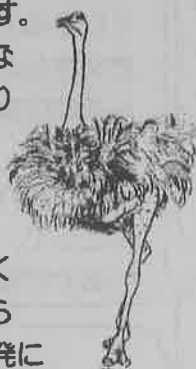


当園では、12オのラザニアと当園生まれの6オのペペの母娘が仲良く暮らしていましたが、9月に娘のペペと、多摩動物園生まれの1オのオスのグランデが交換されました。まだ角もからだもラザニアよりも小さなグランデですが、これからもっと大きく成長するそうです。赤ちゃんの誕生が期待されますね。

⑥足は走るためにある。世界最大の鳥
- ダチョウ -

丘の向こうに、大きな動物が見え隠れ。何かな？と目を向けると、それはダチョウ！一瞬、アフリカからの風が吹きぬけていくように感じます。

バランスをとることしか役に立たない翼を少し広げ、ダイナミックに走ります。たくましい足と、指が2本しかない足先にご注目。時速50キロで走るために進化した体です。意地悪なカラスに背中を傷つけられてしばらく入院していましたが、小屋を建ててもらって草原に復帰しました。カラスが活発に活動する早朝は小屋に入っています。ダチョウに次いで大きな鳥、オーストラリアのエミュも近くにいますから見くらべてみてください。足の指は3本。ダチョウよりきつい性格で、カラスには負けません。



【しつもんコーナー】
レッサーパンダのヒミツ

Q. みんな寝てるよ…。なんで動かないの？
A. 野生のレッサーパンダは、日の出や日の入りの頃に活発に動き回りエサを食べたりします。昼間や夜中は木に登って休憩したり寝ています。暑い時期は体を伸ばして、寒い時期は丸まって寝ていますよ。

あたたかい日は大池に足をのぼしてみてください。別世界の静けさの中でおたやかな時間が流れます。野鳥に気づかれずに観察できる野鳥観察堀もあります。

寒い日は動物科学館でゆっくりしてってください。夜行性動物や小動物、熱帯雨林の鳥やフタユビナマケモノなどが見られます。時間帯によってはゴリラやチンパンジー、ナマケモノの子どもを間近に見られることもあります。

エミュはダチョウのいる草原のはす向い、オオカンガルーといっしょにいます。ダチョウとくらべてみてくださいね。

⑦ シロオリックス
⑥ ダチョウ
アジアゾウの向かい側の低い所にダチョウの小屋が建ちました。

① コツメカワウソ (小動物ゾーン)

⑤ トナカイ 西ロゲト (家畜の原種ゾーン)

動物科学館
② ムツオビアルマジロ ③ エンペラ-タマリン
④ オニオオハシ

